

Features of vascular adverse events in Japanese patients with chronic myeloid leukemia treated with tyrosine kinase inhibitors: a retrospective study of the CML Cooperative Study Group database

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤岡, 功 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002308

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2086 号

Features of vascular adverse events in Japanese patients with chronic myeloid leukemia treated with tyrosine kinase inhibitors: a retrospective study of the CML Cooperative Study Group database

(日本における TKI で治療された CML 患者の血管性有害事象の特徴:CML-CSG 後方視的研究)

藤岡 功 (ふじおか いさお)

博士 (医学)

論文内容の要旨

慢性骨髄性白血病 (CML) は t(9;22) 相互転座によって形成される Philadelphia 染色体と BCR-ABL1 融合遺伝子を特徴とする疾患である。チロシンキナーゼ阻害剤 (TKI) の登場以後 CML の予後は劇的に改善した。長期生存が可能となったため TKI による有害事象のマネジメントが現在の問題となっている。

本研究では、TKI を投与された CML 患者の血管有害事象 (VAE) の発生率および特徴を調べた。CML Cooperative Study Group で収集した 369 人の CML 患者を元に解析を行った。結果として 23 例 (6.2%) において 25 件の VAE が発症した。VAE の発生時に、9 人の患者がイマチニブで、12 人がニロチニブで、3 人がダサチニブで、1 人がボスチニブで治療中であった。VAE の内訳は、虚血性心疾患 (IHD) 13 例、脳梗塞 (CI) 8 例、末梢動脈閉塞症 (PAOD) 4 例であった。調査集団における IHD 発症率は、年齢調整した一般集団における IHD 発症率と比較し、特にニロチニブ投与群においてより高い結果であった。

また、European SCORE chart および Framingham score といった血栓症のリスクアセスメントツールは、日本の吹田スコアと比較し、VAE のリスクで high もしくは very high の患者が多い傾向にあった。

結論として、ニロチニブによって治療された患者は他の TKI で治療された患者と比較し、IHD の発症リスクが高く注意深い観察が必要である。既存の血栓症リスクアセスメントツールでは TKI 治療中の VAE 発症を予測するのは難しく、より有用なツールを模索する必要がある。今後も治療関連 VAE 症例の長期間観察とその分析によるエビデンスの蓄積が必要である。